

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指示された字数には、句読点その他の符号ふもそれぞれ一字としてふくみます)

ものの客観的な長さはあるか

今回は、〈ものの客観的な長さ〉はあるのかということを考えてみましょう。

あれ、また変なことを言い出した。〈ものの長さ〉というのは、客観的に決まっていて、味とか色とかとは違って、感じる側の^①主観的条件には左右されないに決まっているじゃないか。こう考えますよね。(A)、長さの客観性とは、つまり、誰がどのように測っても同じと言ってもいい。ところが、実は〈ものの客観的な長さ〉は存在しないのです。これは、数学や工学の力オス研究、フラクタル研究が近年明らかにした話です。

一九六一年の段階ですが、隣接りんせつするスペインとポルトガルの国境線の長さは、それぞれの国の百科事典にスペインでは九八七キロメートル、ポルトガルでは一二一四キロメートルと載のっていました。オランダとベルギーでも、オランダ側は三八〇キロメートル、ベルギー側は四四九キロメートルになっています。おかしい

ですよ。同一の線なのだから、同じはずなのに。誤差というにはあまりにも顕著けんちょな違いです。これがフラクタル研究の^(a)端緒たんしよになったのですが、それは置いておいて、なぜこのようなことが起こるのか。

日本でも同じようなことがあります。山中湖や琵琶湖の湖岸線の長さは決まっていると思いますか。(B)、お煎餅せんべいでもどら焼きでもよいのですが、周囲の長さは客観的に確定していると思いますか。実は、それを測ろうとすると、どのような物差しを使うかで^②長さが変化してしまうのです。

(C)、宇宙から地球上の湖を見ると点でしかなく、航空写真では線にしか見えません。一方、カニの目で見ると、湖岸線は^(b)途方とほうもない長さになるでしょうし、プランクトンやウィルスから見ると無限に続く長さになりますよね。

現実に、小さな池の周縁の長さを測ろうとして、一メートルの定規じょうぎを使えば数回で測れるはずのものが、一〇センチメートルの定規で測ったら、一メートルの定規では無視される小さなデコボコも測れてしまうので全体では長くなってしまいます。もし、一マイクロメートル(一〇〇〇分の一メートル)の定規があるとすれば目に見えない小さな突起とっきも砂粒つぶも測れますから、無限に近

い感じで長くなってしまいます。こんなことが国境線の長さを測る際にも起きていたと考えられるわけです。

長さは尺度に関係する

どんなにつるつるの表面でも電子顕微鏡^{けんびきょう}で見れば切り立った山のような突起が見えることがあります。細菌^{さいきん}やウイルスから見るとエベレストに登るような複雑なデコボコになるというわけです。長さというのは、実は、測る尺度と関連している。物差しが小さくなればなるほど、物の長さは長くなる。これは不思議です。

一九九〇年代にフラクタルの勉強をしたとき、私が子どもの頃に疑問に思ったことが解けました。フラクタルは簡単に言うと、直線の上に三角形を置いて **I** を作っていくのですが、それをどんどん進めていくと、数学上はほぼ無限に作れるので、三角形の一边の長さがゼロに近くなれば全体の長さはほとんど無限になっていくというもののなのです。測る尺度が変われば長さも変化するカオスやフラクタルのことを知ったとき、あつ、これか！と思ったんですね。

それは、かつて見た冷蔵庫の消臭剤^{しょうしゅうざい}のコーシヤルのことです。活性炭の説明で、「この脱臭剤一グラムの表面積は後樂園球場（現・東京ドーム）の数倍です」という。こんな小さな活性炭一つが、あの広い後樂園球場の数倍の表面積だって！ うーん、何か変だ。この脱臭剤^{だつしゅうざい}一個は後樂園球場より表面積が大きい？ 何かおかしい。だって、もしも後樂園球場にこの活性炭が一個潜^{ひそ}んでいたら、どうなるんだろう。どんなトリックなんだ？ と、ずっと疑問に思っていたのです。これは、活性炭のときにはミクロの単位で、後樂園球場の場合には通常の単位で測れば、**③** ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛

本でしょう。もし、私が大腸菌^{だいちょうきん}だったら使う定規はマイクロメートル単位でしょうから、その定規で海岸線を測ろうとしたら無限としかいいようがありません。逆に、地球をボール代わりにして遊べるくらい巨大な存在だったら、一メートルなんてほとんど微小^{びしょう}な無視すべき単位になります。

人間にとってメートルが^⑤ちょうどよい単位だから、それによつて長い、短い、大きい、小さいという世界が決まっている。こういうことなのです。

その考え方の始まりは、イギリスの気象学者、L・F・リチャードソン（一八八一～一九五三）です。リチャードソンはスペインとポルトガルの国境線の長さの違いに着目して、測定される単位が測定結果にどのように影響^{えいきやう}するかを統計的に推測^{すいそく}し、それが地図の縮尺によつて変化することを突き止めたのです。このような特徴^{とくちょう}をフラクタルと名づけて^⑥一般化^{いっぱんか}したのがブノワ・マンデルブロ（一九二四～二〇一〇）でした。フラクタルという考え方は、海岸線のような複雑な形状を数値化して示す方法として導入されました。有限の距離^{きょり}なのに長さが無限大になる面白い世界。このことが、カオスにもつながっていくのですが、ここでは、フラクタルやカオスが示す世界観が、^⑦私たちのものの

見方を根本から変えてしまったということだけを紹介^{しょうかい}しておきましょう。

（黒崎政男『哲学者クロサキの哲学超入門^{ちやうもん}』より。なお、作問の都合上、一部改変してあります）

問一（A）～（C）にあてはまる言葉として、最も適当なものを次のア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 例えば イ そもそも ウ あるいは
エ しかし オ だから カ まず

問二 二重傍線部(a)・(b)の語について、その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(a) 端緒

ア つまづき イ きっかけ

ウ つながり エ ずれ

(b) 途方もない

ア 道理にはずれる イ 手段にまよう

ウ 並みはずれた エ 役に立たない

問三 ――線部①「主観的条件には左右されない」理由を説明した次の文の A ・ B にあてはまる語句を、それぞれ本文中から十三字で書きぬきなさい。

ものの A もので、それを B になるから。

問四 ――線部②「長さが変化してしまう」とあるが、長さを説明した次の文の A ・ C にあてはまる語句を、それぞれ本文中から四字で、また B ・ D にあてはまる語句を、それぞれ本文中から三字で書きぬきなさい。

長さというものは A と対応関係にあるので、小さな B で測ると C は長くなる。つまり C は単位と尺度を測る側が D に変えてしまうと、無限に近い感じで長くなってしまうから。

問五 ――線部③「そういうこと」を説明した次の文の にあてはまる言葉を、本文中から十四字で書きぬきなさい。
わずか一つの活性炭が になるということ。

問六 I ・ II にあてはまる語を、それぞれ四字・三字で本文中から書きぬきなさい。

問七 ――線部④「すっきり」の意味を次の ア・ エから選び、記号で答えなさい。

- ア 形式論理的に矛盾むじゆんがないこと
- イ 科学的な証明が不十分だということ
- ウ 内容を整理して理解すること
- エ 大きなコマ―シヤルだということ

問八 ——— 線部⑤ 「ちょうどよい単位」を説明した次のア、エの

うち、正しいものを選び、記号で答えなさい。

ア 一メートルは私たちにとって球場の広さを測る単位として用いられているので、オリンピックなどスポーツ競技の標準となっているということ。

イ 一メートルは地球の直径から正確に定められた単位なので、あらゆる場面で人類共通に適用されるべきだということ。

ウ 一メートルは私たちにとって生活の基本となる意味のある長さなので、それによって物の長短、大小を測るのが適切だということ。

エ 一メートルは測定結果に影響を与えることが最も少ない単位なので、地図の縮尺を考えるとときに導入されたものだという事。

問九 ——— 線部⑥ 「一般化」を説明した次の文の□□にあて

はまる言葉を、本文中から十七字で書きぬきなさい。

測定単位によっては、□□ことを、あらゆるケースに当てはめて考えること。

問十 ——— 線部⑦ 「私たちのものの見方」として最も適切なものを

次のア、イ、ウから選び、記号で答えなさい。

ア	国際性	イ	独立心	ウ	国境線
エ	世界観	オ	視聴者 しちょう	カ	生活感

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（指示された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます）

涼しくって気持ちいい。こないだまではタオルケットで充分だったのに、今はふわふわのお布団がないとちよつとつらい。

つまりは、秋だつてことだよねえ。私は布団の中でころりと寝返りを打つ。

「杏子」

今、誰か呼んだかな。でもまだ目覚ましは鳴ってないし、いや。ホント、涼しいからいくらでも寝られちゃう。幸せだなあ。

「杏子、ちよつと」

体を揺さぶられて、ぼんやり目を開ける。

「……ん？」

お母さんだ。いつもは自分の目覚ましで起きているから、こうして起こされるのは久しぶり。何か①緊急の用事でもあるんだろうか。

「何、お母さん」

「何じゃないわよ。あんた、もう出る時間じゃないの」

「え？」

のろのろと枕元の目覚ましを見ようとすると、手が文庫本に触れる。そうそう、昨日の夜はこれが面白くてつい夜更かししちゃったんだった。犯人がすごく怖かったから、捕まるまで読まないと安心して眠れないと思って。（A）ラスト、皆助かってよかったなあ。ホントすつとした。そんなことを考えながら、時計を顔の前に持つてくる。「んん？」

は、ち、じ。見間違いだろうか。時計の針がいつもより一時間早く進んでいるように思えるんだけど。私がぼんやりと首をかしげていると、駄目押しのようにお母さんが読み上げた。

「だから、もう八時だつて言ってるでしょ！ 遅刻よ遅刻！」

「うそーっ」

私は跳ね起きて、時計を二度見する。いつ止めたんだろう。全然気づかなかった。

「鳴ってたから、起きてくると思ったのに」

「だったらもつと早く起こしてよ」

②理不尽な要求だとは思いつつも、寝坊のお約束的な台詞をぶつけてしまう。

とはいえ、学校じゃないんだから、遅刻なんてできない。

いつも最低限の人数で回している店は、一人が遅れたら後の人のお昼がどんどんずれてゆく。それに私が行かなければ、朝一の売り場が椿店長一人になってしまう。

「杏子、パンいる？」

「ごめん！ いない」

どうせ後で制服に着替えるんだと自分に言い聞かせて、手近にあったものすごく適当な服を身に着ける。デニムに長袖Tシャツ、上に厚手のパーカーを羽織ればず・ご近所ファッションの出来上がり。

メイクは着いてからすることにして、とにかく家を飛び出した。駅までの道を走りながら、ふと③パンをくわえてくればよかったかなと思う。

だってほら、マンガの中ではよくあるじゃない。主人公が曲がり角でぶつかって恋に落ちるのは、「遅刻しちゃう！」なんて言いながら食パンをくわえて走ってきた女の子なんでしょ？

あ。でもそれってきやしやな体型の女の子限定か。私が全力でぶつかったら、きっと相手も尻餅とかついちゃうだろうし。

ラブコメとは、とんと縁のない人生。でもまあ今はとにかく走らなきゃ。

お腹へった。

ロッカーの前で慌ただしく口紅を塗りながら、私は時計を見た。時間は八時五十分。お昼にはまだまだ遠い。ていうかそもそも、朝ご飯を食べ損なった自分が悪いんだけど。

「消防訓練？」

なんとか間に合って肩で息をする私に、椿店長は笑顔でうなづく。

「ええ。今日は秋の火災予防運動の一環で、各店から一名ずつ訓練に出ないといけないの。それを梅本さんをお願いしたいんだけど」

ほんの二十分程度だし、開店前に戻って来られるから。そう言われて私は従業員用のエレベーターに乗り、④社員食堂のある階に向かった。

「はい。消防訓練に参加される方は、この紙にサインをしてから外に出て下さい」

テラスへと続くガラス扉の前で、東京百貨店の社員さんらしき男性がファイルを持って立っている。私はそこに出来た列に並び、店名を申告した。

「何階の何さん？」

「地下一階食品売り場の『みつ屋』です」

「えー、みつ屋さんね。ああ、あったあった」

じゃあここにサインして下さい。そう言われて、自分の名前を書き込む。

「はい。じゃあ外に出て、消防署の方の指示に従って下さい」

開けたままになっている扉から外に出ると、涼しい空気がすつと体を包んだ。

社員食堂があるのは、ビルの八階と九階の間。高い場所にある空中庭園は、普段は皆の休憩広場として使われている。近くに公園もなく昼休みに外へ出る余裕もない私たちにとって、ここは貴重なリラックス空間だ。

八階と九階の間なんて、最初に聞いたときは「忍者の隠し部屋？」とか思っただけで、要するにお客さんには表示されない階もあるということ。だからこの階に行くには、従業員専用のエレベーターを使わないといけない。地下の従業員入り口といい、この建物はいちいち※ダンジョンっぽい気がするのは私だけだろうか。

「皆さん揃われましたかー。そろそろはじめさせていただきますので、後ろの人はもうちょっと前に出て下さい」

紺色のつなぎを着た消防署のおじさんが、広場の中心で（B）をする。けれど集まった人々は薄笑いを浮かべてちよつと輪を狭めるだけ。（C）学校の授業のときみたいだ。

「はい。じゃあこれからお店の防災に関してお話をして、その後実演に入ります」

おじさんはそんな人たちには慣れっこのようで、さくさくと話を進める。いわく、店の通路には物を置かないこと。避難経路は覚えておくこと。消火器の位置は確認しておくこと。

聞かなくても知っているような説明が続くので、私はちよつとだけ飽きてきた。だってまだ眠いし、お腹もすいてるし。

「特に地下にいる方は、非常灯のチェックを忘れないで下さい」地下。私ははつとして顔を上げる。そうか、電気が切れたら窓のないデパ地下は真っ暗なんだ。地震のときなんか注意しないと。

「では消火器の実演に入ります。皆さん、ちゃんと見て下さいねー」

おじさんの号令で、消防士らしい制服を着たお兄さんが二人、目の前に出てきた。一人は金属製のトレイの上に小さな火をおこ

し、もう一人がこちらに向かって消火器を見せる。

「もし自分の近くで火を発見したら、まずはこのピンを抜いてー」

言いながら、黄色いプラスチックを引き抜く。

「で、目標に向かってしっかりと狙いを定めるわけですが、誰か代表してやっていただきますしうか。やりたい人、いますかー？」

全員が、ちらちらと顔を見合わせた。皆適当に選ばれた上、横の繋がりはゼロに等しい。だから誰かを推薦することはない。

「んー？ 希望者がいらつしやらないようでしたら、こちらから指名させていただきますよ」

おじさんが参加者を見渡した。皆、（D）目を合わせないように、そらしている。私だつて当たりたくはないけれど、でも全員がそつちを見ないつていうのも悪い気がして、ついおじさんの顔を見返してしまう。

「お。じゃあその黒いエプロンを着けたお嬢さん」

やつぱり、見なきやよかった。⑤ 軽い後悔と共に、私は一步前に出た。

「はいここ持って。火を見て。構えて。はい放射！」

流れ作業のように消火剤を撒くと、案外あつけなく火は消え

る。

「はいよくできました。というわけで、いざというときは皆さんも彼女のように落ち着いて行動して下さいね」

ばちばち。ゆるい拍手のあと、おじさんはそのまま話を続けた。私は戻るタイミングを逸して、⑥ 微妙な笑顔で隣に立っている。

（1）

おじさんが何やら書類を覗き込んで、つかの間沈黙が落ちた。やつと終わりかな。そう思った次の瞬間、私のお腹が盛大な音をたてる。

（2）

静まり返る広場。作業の手を止めて私の方を振り返る消防士さん。繰り返して言うけど、ここに集まつてる人は横の繋がりがゼロ。だから誰も笑わないし、突つ込まない。

ていうか突つ込んでくれないと、どうしようもなくいたたまれないんですけど！ 私の心の叫びが通じたのか、消防署のおじさんが苦笑する。

（3）「……はい」

私は真っ赤な顔でうつむいたまま、小さく返事をした。

「そんじゃちよつと早めに切り上げようかね」

(4)

そう言っておじさんは、私の肩を叩いた。

注 ダンジョン：地下迷宮のこと

(坂木司『和菓子のアン』より。なお、作問の都合上、一部改変

してあります)

問一 (A) ・ (C) にあてはまる言葉として、最も適当

なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

A ア なぜなら イ つまり ウ そして エ でも

C ア もしも イ まるで ウ たとえ エ だから

問二 (B) にあてはまる言葉として、最も適当なものを次

のア～エから選び、記号で答えなさい。

A ひいてひいて イ あおげあおげ

ウ とんでとんで エ おいでおいで

問三 (D) にあてはまる言葉として、最も適当なものを次

のア～エから選び、記号で答えなさい。

A 嫌われないように イ やる気があるように

ウ 選ばれないように エ 後悔するかのよう

問四 — 線部①「緊急」・⑥「微妙」の対義語を、次の漢字の

中から組み合わせ、それぞれ漢字で書きなさい。

妙 反 無 絶 非 雑 常 対 争 和 平

問五 — 線部②「理不尽な要求」とあるが、要求が理不尽と考

えられる理由を説明した次の文の A ・ B にあては

まる語句を、それぞれ本文中から三字・十字で書きぬきなさい。

い。

お母さんは A 前に目覚まし時計が鳴っていたので、

「杏子」が仕事に出る時間に間に合うように起きてくるもの

と思っていたのに、「杏子」はお母さんを B で

責めてしまったから。

問六 ——— 線部③「パンをくわえてくればよかったかな」とあるが、このように「杏子」が思う理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 恋に縁のない生活を、そろそろ終わりにしたいから。

イ 仕事に急いで来たことを、演出する道具になるから。

ウ お昼が食べられない自分をイメージして、空腹を感じたから。

エ せっかくパンを用意してくれたお母さんに、申し訳ないから。

問七 ——— 線部④「社員食堂」のある場所を「杏子」は何にたとえているか。本文中から十一字で書きぬきなさい。

問八 ——— 線部⑤「軽い後悔」とあるが、なぜか。解答欄の「～から。」につながる表現を本文中から十二字で書きぬきなさい。

問九 (1) (4) にあてはまる会話として、最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 「え」

イ 「あー、朝ご飯食べてこなかったの？」

ウ 「開店前にお菓子でもつまむといいよ」

エ 「えーと、それじゃ」

問十 本文全体を前半と後半に分けるとすると、後半の最初となる五字を本文中から書きぬきなさい。

問十一 あなたが自分の不注意で経験した失敗を五十字以内で自由に書きなさい。ただし文には主語を書き入れ、それぞれの文節の間の関係に注意して書きなさい。（次に練習用のマスがあるので、使いなさい。）

（練習用マス）

三 次のア、イ、ウ、エ、オの——線部で、慣用表現として正しいものには○、間違っているものには×を付けなさい。

ア 急な連絡で取るものも取りあえず病院に向かった。

イ 去年の最高賞に勝るとも劣らない優秀な出来映えだ。

ウ 人生には逃げるが負けの場面が多くある。

エ 後へも先へも引けぬ状況に陥って、あせってしまふ。

オ 先代の芸名を受け継いで、押しも押されぬ立派な落語家になった。

四 次の問いに答えなさい。

問一 次の(1)・(2)の――線部で、性質が異なることばを次のアゝ

エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) ア 新神戸駅から新幹線に乗る。

イ 値段が安いからたくさん買った。

ウ 雨が早朝から降り出した。

エ 現実から逃避しがちだ。

(2) ア 仕事がまったく進まない。

イ テレビを見ない若者が多い。

ウ 好きな子はまだいない。

エ 今年の冬は寒くない。

問二 次の(1)ゝ(3)の漢字二字の熟語のうち、読み方の組み合わせ

が他の三つと異なっているものはどれですか。次のアゝエから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) ア 月見 イ 洋服 ウ 電車 エ 他者

(2) ア 本箱 イ 職場 ウ 幸運 エ 初雪

(3) ア 台所 イ 賞罰しょうばつ ウ 優劣 エ 呼応

五 次の――線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書

きなさい。

(1) 後日会議の席次をお知らせします。

(2) 昆虫のさなぎが羽化する。

(3) ここは中世貴族の社交場であった。

(4) 積雪で列車のダイヤが乱れる。

(5) 茶を点てる。

(6) ケサの雨は激しかった。

(7) 善いことは名誉やエイタツを考えずに行うものだ。

(8) 多額のイサンを相続する。

(9) 墓前に花をソナえる。

(10) 年長者をウヤマうべきだ。

